

電力供給入札心得

(目的)

第1条 釧路広域連合清掃工場で使用する電力の供給に係る一般競争入札その他の取り扱いについては、別に定めのあるもののほか、この心得に定めるところによるものとする。

(入札保証金)

第2条 入札に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）は、入札執行前に見積金額（消費税及び地方消費税相当額を含む）の100分の5以上の入札保証金又は入札保証金に代わる担保を連合に納付し、又は提供しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するときは、入札保証金の全部又は一部の納付を免除することができる。

(1) 入札参加者が、連合を被保険者とする入札保証保険証書を提出したとき。

(2) 入札参加者が、釧路市に関する規定を釧路広域連合規則として準用する規則「釧路市契約規則」（以下「契約規則」という。）第5条第1項に規定する名簿登載者で、過去2年間に本連合、国又は他の地方公共団体と種類及び規模をほぼ同じくする契約を数回以上にわたって締結し、かつ、これらをすべて誠実に履行したものであって、契約を締結しないこととなるおそれがないと認められるとき。

(3) 前2号に定めるもののほか、連合長が特に認めたとき。

3 入札参加者は、第1項の規定により提供した入札保証金に代わる担保が銀行又は連合長が確実と認める金融機関（以下「銀行等」という。）に対する定期預金債権である場合においては、当該債権に質権を設定し、当該債権に係る証書及び当該債権に係る債務者である銀行等の承諾を証する確定日付のある書面を提出しなければならない。

4 入札参加者は、第1項の規定により提供する入札保証金に代わる担保が銀行等の保証である場合においては、当該保証に係る保証書を提出しなければならない。

5 入札保証金又は入札保証金に代わる担保は、落札者に対しては契約締結後に、落札者以外の者に対しては入札執行後に還付する。

(入札)

第3条 入札者は、入札書（様式1）に所要の事項を記入し、入札の際にこれを提出しなければならない。

2 入札参加者は、代理人をして入札させるときは、その委任状（様式2）を提出しなければならない。

3 入札参加者又は入札参加者の代理人は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることができない。

4 入札参加者は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4第1項（第167条の11で準用する場合を含む。）の規定に該当する者を入札代理人とすることができない。

(入札の辞退)

第4条 入札参加者は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができる。

2 入札参加者は、入札を辞退するときは、その旨を次の各号に掲げるところにより申し出るものとする。

(1) 入札執行前であつては、その旨を文書又は口頭により契約事務担当部局に提出又は申し出ること。

(2) 入札執行中であつては、その旨を入札執行官に申し出ること。

3 前項の規定により入札を辞退した者は、これを理由として以後の入札等について不利益な取り扱いを受けるものではない。

(公正な入札の確保)

第5条 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。

2 入札参加者は、入札に当たっては、競争を制限する目的で他の入札参加者と入札価格又は入札意思についていかなる相談も行わず、独自に入札価格を定めなければならない。

3 入札参加者は、落札者の決定前に、他の入札参加者に対して入札価格を意識的に開示してはならない。

(入札の取り止め等)

第6条 入札参加者が連合し、又は不穩の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し、若しくは取り止めることがある。

(無効の入札)

第7条 次の各号の一に該当する入札は、無効とする。

(1) 競争に参加する資格を有しない者のした入札

(2) 委任状を持参しない代理人のした入札

(3) 所定の入札保証金又は保証金に代わる担保を納付又は提供しない者のした入札

(4) 入札書に記名押印がなされていない入札

(5) 入札書の入札金額を訂正した入札

(6) 入札書の誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札

(7) 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね、又は2人以上の代理人をした者の入札

(8) その他入札に関する条件に違反した入札

(落札者の決定方法)

第8条 有効な入札を行った者のうち、入札概算総額が最低の価格の者であつて、入札金額計算書（以下「計算書」という。）に記載されている税抜単価がすべて予定価格の制限の範囲内の価格であれば、当該入札者を落札者とする。

また、概算総額が最低の価格の者の計算書に記載されている税抜単価のうち、予定価格の制限の範囲内でない価格があった場合、一つでも予定価格の制限の範囲内の価格があれば、当該入札者を落札候補者とする。

このとき、予定価格の制限の範囲内の単価区分は落札とするが、予定価格を上回った単価区分は不落札とし、不落札とした単価区分については、予定価格の制限の範囲内で当該落札候補者と随意契約により決定する。

なお、すべての単価区分が予定価格の制限の範囲内とならない場合は、当該入札者の落札候補者としての決定を取り消すものとし、当該落札候補者の次に低い価格をもって入札した者から順に、落札者が決定するまで同様の手続きを行うものとする。

この場合においても、前述のとおり計算書に記載されている税抜単価のうち、一つでも予定価格の制限の範囲内の価格であることが条件となる。

(再度入札)

第9条 開札をした場合において、各人の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行う。ただし、第1回目入札において、参加を辞退した者、参加しなかった者、無効入札をした者又は失格となった者については、再度の入札に参加することができない。

2 再度の入札の執行回数は、原則として1回とする。

3 再度の入札に付しても落札者がいないときは、随意契約（不落随契をいう。）により落札者を決定する。この場合において、最低の価格をもって入札をした者を含む2者以上から見積書を徴する。

4 不落随契によっても落札者が決定しないときは、入札の執行を取り止め、再度公告入札に付す。

(同額の入札が2人以上ある場合)

第10条 概算総額が同額の入札をした者が2人以上あるときは、予定価格の制限の範囲内の価格の数が多い者を上位とする。

2 予定価格の制限の範囲内の価格の数と同じ場合は、当該入札をした者にくじを引かせて順位を決定する。

3 前項の場合において、当該入札者はくじを引くことを辞退することはできない。

(契約保証金等)

第11条 落札者は、当該契約を締結しようとするときは、契約金額の100分の10以上の契約保証金又は契約保証金に代わる担保を納付し、又は提供しなければならない。ただし、契約保証金の全部又は一部を免除された場合は、この限りではない。

2 第2条第2項の規定は、前項但し書きの場合について準用する。

3 落札者は、第1項本文の規定により契約保証金を納付する場合は、あらかじめ現金を納付書により指定金融機関に納付し、現金領収証書の交付を受け契約事務担当部局に提出しなければならない。

4 落札者は、第1項本文の規定により契約保証金に代わる担保を提供する場合においては、当該担保が有価証券であるときは、有価証券納付書とともに契約事務担当部局に提出しなければならない。

(入札保証金等の振替)

第12条 契約事務担当部局において必要があると認める場合には、落札者に還付すべき入札保証金又は入札保証金に代わる担保を契約保証金又は契約保証金に代わる担保の一部に振り替えることができる。

(契約の締結等)

第13条 契約書を作成する場合においては、落札者は、本連合から交付された契約書に記名捺印し、落札決定の日から7日以内に提出しなければならない。

2 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

(異議の申立)

第14条 入札した者は、入札後、この心得、仕様書、関係書類等についての不明を理由として異議を申し立てることはできない。

(その他)

第15条 この心得に定めのあるもののほか、契約規則等による。